

# 第6代第11特科隊長 高山1佐着任



▲ 巡閲を行う第6代第11特科隊長高山1佐



▲ 整斉と行進する火砲



▲ 要望事項を述べる隊長

発行所

11特OB会

連絡先

札幌市南区真駒内17番地  
第11特科隊広報室  
TEL (011) 581-3191  
内線 2646  
印刷 札幌造型

## 主な記事

二面 第69回さっぽろ雪まつり協力  
三面 平成29年度第3中隊訓練検閲  
平成29年度隊冬季練成訓練  
防衛大臣部隊視察受け

四面 平成29年度冬季山岳遭難救助(応用)訓練  
平成29年度特科隊冬季戦技競技会  
五面 幹部任官行事、北海道銃剣道選手権大会  
六面 西島隊長離任、異動記事、定年退官者紹介

## 主要勤務歴

平成6年	2月	第1特科連隊第2大隊
平成11年	8月	第1特科連隊第5大隊第10中隊長
平成14年	3月	第1師団司令部第3部訓練幹部
平成18年	3月	幹部特修(野戦特科)課程学生
平成19年	3月	富士学校特科部教育課戦術教官
平成21年	3月	統合幕僚監部運用部運用第2課災害派遣班
平成23年	10月	運用企画局事態対処課兼ねて 内閣府(防災)防災対策推進室出向
平成24年	8月	第10特科連隊第5大隊長
平成26年	3月	中部方面總監部防衛部訓練課長補佐(Y S 6 9)
平成28年	3月	陸上幕僚監部運用支援・訓練部運用支援課 航空支援集団陸上連絡官
平成30年	3月	現職

平成30年3月27日、真駒内駐屯地西体育館において、第6代第11特科隊長高山将一1等陸佐の着任式等を行った。

第11旅団長による着任部隊長の紹介の後、着任式を行い、隊長は着任の辞において「元気で篤実(とくじつ)かつ前向きであれ」「情熱と愛情溢れる部隊であれ」を要望事項として述べた。

着任式後は、火砲及び装輪車両をもって観閲行進を行い、隊長は隊の練度及び隊員の士気の高さを確認した。

また、3月28日には、初度巡視を行い勤務隊舎、生活隊舎及び野外施設を確認・点検するとともに、立会者一人一人に声を掛け、健全かつ元氣な隊員の状況を確認した。

# 第69回さっぽろ雪まつり協力



▲完成を目指しラストスパート



▲完成した大雪像『ファイナルファンタジー XIV"白銀の決戦"』



▲技術班長の船木1曹



▲制作期間中は訓練写真と自衛官募集ののぼりを立て募集広報に協力



▲家族見学会では多くの子供達が雪像制作をお手伝い



▲制作期間中は多くの方々が隊員を激励

平成30年1月7日から2月12日までの間、第69回さっぽろ雪まつりの大通4丁目STV広場における大雪像『ファイナルファンタジー XIV"白銀の決戦"』制作に第11偵察隊(隊長 前川2佐)、第11高射特科中隊(中隊長 高倉3佐)とともに、協力した。

1月7日、安全祈願式並びにノミ入れ式が行われ、制作作業を開始し、厳冬の中、1件の事故もなく雪像を完成させ、2月4日、札幌テレビ放送株式会社(STV)に引き渡した。

協力期間中は、中帽(ヘルメット)への「平和を仕事にする」ステッカーの貼付、自衛官募集のぼりの設置、訓練写真パネルの掲示及びSTVの番組「すすめ!みらい戦隊」とのコラボなど、積極的に募集広報を行うとともに家族見学会を実施し、隊員家族との連携強化を図った。

また、引き渡し後の2月10日、11日にステージ上で行われた雪まつりのイベントに協力し、広報効果の向上を図った。

雪まつり開催期間中(2月5日~12日)は、気温の高い日もあり、2月9日、夜間に補修作業を行い、雪像の維持を行った。雪像を見た観客からは「素晴らしい」「すごい迫力」といった声が聞かれ、その迫力と完成度の高さで感動を与えた。



やまぶき会総会・懇親会

平成30年1月28日、やまぶき会の会員を招いて雪像見学会が行われ、参加者は制作中の雪像を見学し、「特科隊は毎回難しいキャラクターを制作しているが、今回も感動を与える雪像を制作して下さい。」と、隊員を激励した。

その後、東急REIホテルでやまぶき会の総会が行われ、平成30年度も引き続き特科隊と密接に連携し、協力基盤を強固なものにすることで合意し、平成29年度の総会を終えた。

▲やまぶき会員と隊員の記念撮影

# 平成29年度第3中隊訓練検閲



機動力を発揮した迅速な陣地変換



▶ 極寒の中で絶えず四周を警戒 (上野2曹)

平成30年2月22日から2月24日までの間、北海道大演習場(恵庭・千歳地区)において平成29年度第3中隊(中隊長北條3佐)訓練検閲を行った。

本検閲では、冬季の特性を踏まえた陣地占領及び陣地変換、特に積雪による各種制約を克服しつつ、現行の特科隊の部隊運用(頻繁な小移動)のターゲットインングの手順及び火力調整による情報と機動と火力の連携を主要検閲項目として行われた。検閲は、交戦訓練用装置(パトラ)を火砲及び隊員に装着して戦闘するということ、極めて実戦的な状況で行われるとともに、日中でも氷点下の厳しい気象条件で行われ、第3中隊は中隊長を核心とし「生き残り」を戦闘を継続するの要望事項を具現して、これまで訓練で積み上げた練度を遺憾なく発揮して多くの成果を得て訓練検閲を終了した。

なお、27日に行われた訓練検閲総評において岩崎1尉、上野2曹及び高森2曹が優秀隊員として選出された。



◀ コンパスを使用し陣地を選定する 随行班(石川3曹)

平成29年度

## 隊冬季練成訓練

平成30年2月21日から24日の間、真駒内駐屯地で平成29年度隊冬季練成訓練を行った。

本訓練は、冬季の特性に応じた部隊の基本的行動、隊員の基礎動作の向上を図る目的で行われ、10式雪上車によるジョーリング、積雪地の特性に応じた小銃の各種射撃姿勢及び宿営を行った。



◀ 10式雪上車でジョーリング

当初、第3科運用訓練幹部(玉谷3佐)が特科隊に装備されているアキオ(荷物を運搬する為のソリ)、10式雪上車及び軽雪上車について説明し、隊員4名によるアキオ曳行及び各雪上車によるジョーリング要領を展示した。

その後、防衛大臣は駐屯地総合グラウンドにおいて、10式雪上車及び軽雪上車に乗車された。引き続き、上級部隊スキー指導官(第1中隊 能登3尉)が、スキー(3型)の特性、スキー機動の要領を展示説明の後、総合グラウンド内に準備したスキーコースにおいて、展示要員とともに滑走や滑降の訓練を行った。

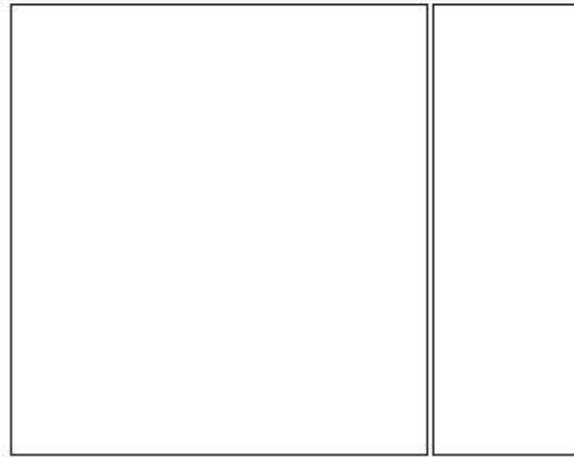


◀ スキーを装着し滑走訓練を行う 防衛大臣

## 防衛大臣部隊視察受け

平成30年2月25日、真駒内駐屯地において、小野寺防衛大臣の第11旅団部隊視察に伴う訓練展示を担当した。

最後のイグルー訓練では、防衛大臣自らがアイスブロックの切り出しを行ったのち、隊が事前に作成したイグルーに陸上幕僚長、北部方面総監及び第11旅団長とともに入られた。防衛大臣とともに訓練ができた隊員は、その貴重な体験に感謝するとともに士気も高まった。



# 平成29年度冬季山岳遭難救助(応用)訓練



▶ 猛吹雪をものともせず山岳機動開始



▶ 応急処置後の引き上げ準備

平成30年1月17日から26日までの間、真駒内駐屯地、朝里岳及びキロススキー場周辺で、平成29年度特科隊冬季山岳遭難救助(応用)訓練を行った。

本訓練は、隊区内において冬季山岳遭難が発生した場合の救助を目的として特科隊冬季山岳遭難救助要員の練度向上と新たな基幹要員を養成するため、各中隊の精鋭11名が参加した。

当初、真駒内駐屯地において、冬季一般、リスクマネージメント、読図、山岳救助に関する救急処置の学科、実習及び基礎訓練の反復演練を行い、生地訓練に備えて周到な準備を行った。

生地訓練は、隊区である赤井川村のキロススキー場周辺及び朝里岳においてスキー機動、遭難者の救出・救助及び搬送訓練を行った。初めて参加した隊員は「風速最大毎秒20メートルを越える風が吹き付け、体感気温が氷点下30度以下での行動は貴重な体験でした。」と訓練の過酷さを語った。

訓練参加者は本訓練を通して、知識、技能及び体力など個々の練度を向上させるとともに隊員間の信頼感や組織力を高め、無事に帰隊するとともに、隊長から「ブリザードレスキュー」の名誉称号を受けた。



▶ 救助者の引き上げ訓練

# 平成29年度特科隊冬季戦技競技会



▶ 昨年度優勝中隊代表による選手宣誓 (第2中隊 小林士長)



▶ 傾斜のある林内を力を合わせアキオ曳行(右 本部管理中隊 青山2曹)

平成30年3月7日、北海道大演習場(島松地区)において平成29年度特科隊冬季戦技競技会を行った。本競技会は、積雪寒冷地における任務遂行の基礎を確立することを目的とし、アキオ曳行を含む各中隊對抗の部隊機動方式で行われ、所要時間は評価せず、チェックリストに基づき部隊の基本的行動及び隊員の基礎動作を評価した。

各中隊は、各隊員の練度・技量を把握し、それに応じた適切な経路を計画するとともに啓開員(主力の前方を進行しつつ経路を選定し、主力の行進を容易にする)を複数前進させ最適な経路を選択するほか、林内をトラバースで登坂する際はアキオの前後に人員を配置し、切り返しを容易にする工夫を行う等、機動要領を熟考しながら指定されたチェックポイントを通過して行った。

参加した隊員は、中隊の名誉をかけ、それぞれが個人の能力を最大限発揮し、積雪寒冷地における任務遂行の基礎を確立し、競技会を終えた。厳正な審査の結果、昨年に続き第2中隊が優勝し、9日の閉会式において表彰された。



▶ 地形に応じ安全な速度で滑降 (前方から第2中隊 渡邊3曹 露木士長)

### 第117期幹部任官行事

平成30年3月17日、真駒内駐屯地において第117期幹部自衛官任官行事を行った。

本行事は幹部自衛官任官者4名に対し、幹部自衛官としての使命感の重要性及び積雪寒冷地に所属する隊員であることを認識させるとともに初級幹部として必要な資質を涵養することを目的に行われた。

起床時刻(午前6時)に観測を行うための拠点占領任務が与えられ、戦闘準備、軽雪上車によるジョーリング及びアキオ曳行により拠点に進するとともに、順次に指揮官役を交代し命令・号令をもって部隊を指揮した。

任務完了後は第117期幹部自衛官任官式を行い真新しい階級章の受領、隊長への任官申告、幹部自衛官としての決意表明をし、初級幹部としての第一歩を踏み出した。



▶真新しい階級章を胸に記念撮影  
(左から) 第3中隊宮崎3尉 第2中隊友近3尉 第1中隊小門3尉 本部管理中隊 山田3尉

### 北海道銃剣道選手権大会

平成30年3月31日及び4月1日、帯広市総合体育館で行われた第58回北海道銃剣道選手権大会に参加した。

競技はトーナメント方式で行われ、青年の部に3コチーム(1コチーム3名編成)、成年の部に2コチーム(1コチーム5名編成)が参加し、これまで練成した成果を遺憾なく発揮した。

副隊長及び最先任上級曹長が激励する中、成年の第2部に参加した11特Aチームは順調に勝ち上がり、準々決勝で2特Aチームと対戦し2勝2敗で大將戦を迎え、大將 河原塚2曹は、手に汗握る熱戦を繰り広げたが、惜しくも敗れた。(相手チームは優勝)



▶応援を背に渾身の一撃  
(11特Aチーム中堅 藺牟田2尉 右)

### 平成30年度隊内生活体験

平成30年4月10日から12日までの間、真駒内駐屯地において、隊内生活体験を行った。

隊内生活体験に参加したのは、小樽市銭函に所在する極東高分子株式会社(男性3名、女性8名計11名の新入社員)で、営内での生活を体験するとともに、基本教練、野外衛生、CCV体験試乗及び10キロメートルの徒歩行進訓練などを行った。

徒歩行進訓練は、雨が降る悪天候の中で行われたが、全員が無事に完歩し、特科隊隊舎前のゴール地点において共に行進をした副隊長に完歩の報告をした。また、基本教練は、班対抗の競技会を行い、動作の正確さと節度を追求した。

参加者からは、「行進訓練を終え忍耐力が深まりました。」「同期(新入社員)との仲が深まりました。」「きめ細かい訓練を計画して頂くとともに当社の要望に添って頂いた貴重な生活体験となりました。」などの感想があった。

3日間の隊内生活体験を終えた11名は、教育を担当した要員7名を含め特科隊員が見送る中、涙と笑顔で駐屯地を後にした。



▶特科隊員の見守る中、ゴールを目指す

